

令和5年度 第5回沖縄県がん診療連携協議会 医療部会議事要旨

日 時：令和6年3月18日（月） 16：30～18：00

場 所：Zoom を利用した Web 会議

参加者：7名

有賀拓郎(琉球大学病院)、伊江将史(県立中部病院)、照屋淳(北部地区医師会病院)、野村寛徳(琉球大学病院)、外間早紀子(沖縄県保健医療部健康長寿課)、松村敏信(県立八重山病院)、増田昌人(琉大病院がんセンター)

欠席者：3名

安次嶺宏哉(沖縄協同病院)、川満博昭(県立宮古病院)、宮里浩(那覇市立病院)

陪 席：1名

西佐和子(琉大病院がんセンター)

【報告事項】

1. 令和5年度 第4回医療部会議事要旨について

野村部会長より、資料1に基づき、第4回医療部会議事要旨について説明があった。各自確認し、要望や意見等があれば、がんセンターに連絡するようにとのことだった。

2. 所掌分担について

増田委員より、資料2に基づき、次年度の協議会活動の重点事項および所掌分担について報告があった。

3. 今後、専門部会で行うこと

増田委員より、資料3に基づき、協議会でPDCA サイクルをまわすために専門部会で行うことについて報告があった。

4. その他

特になし。

【協議事項】

1. 来年度、委員の選任について

次回に持ち越しとなった。

2. ロジックモデルを用いたの次年度の活動計画について

増田委員より、資料4に基づき、医療部会が所掌するロジックモデルフルバージョンについて、改めて説明があった。その後、前回の部会で決定した3療法（④手術療法⑤放射線療

法⑥薬物療法)の初期アウトカム<必要な資格を持った専門家を計画的に養成し、「施設」に必要に応じて設置することができている>以外に、取り組むべき重点施策があるか、協議に移った。

照屋委員より、北部は乳がんの患者さんも当然多く、手術もするが、専門医がいない。専門医が中南部にかなり集中している印象を受ける。北部や離島に専門医を送ってこないか、ローテーターとして行ってこないかといった提言はできないものかと集約化と分散化の観点から提案があった。

増田委員より、ある程度の集約が必要であれば、専門医が離島に週一回行くとか、月一回行くということが必要なのかもしれない。医師を一年交代で宮古病院に派遣する制度を作るといいですよと提案することも医療部会の仕事なのかもしれない。胃がんや大腸がん、乳がんといった大口のがん種からディスカッションしていくと効率がよいのではないか。多いがん種を決めると骨格が決まってくる、他のがん種もそれに準じてディスカッションできるのではないかと提案があった。

有賀委員より、がん種毎の教育機関や専門医を配置する組織のステークホルダーを同定し、そのステークホルダーに対して、医療ニーズを満たすために、どれだけの専門医をどの地域に出さなければならないのかといったロードマップを出してもらったり、こちらが提言することが、例えば手術療法の個別施策になるのではないかと提案があった。

3. 所掌分担領域の進捗の評価について

次回へ持ち越しとなった。今回は、人口10万人当たりの専門家および修練施設の数で沖縄県、全国平均値、最良県別にデータを確認した上で現状を評価し、今後沖縄県はどうしていったらよいかを協議する。

4. 次回の開催日程について

6月開催予定。詳細につきましては、がんセンターから連絡します。

5. その他

特になし。